

令和6年度 学校教育自己診断集計結果について(報告)

日ごろより、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

学校教育自己診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果と考察を以下の通りご報告いたします。また、児童・生徒の代表委員会が実施している「学校についてのアンケート」についても併せてご報告いたします。

資料として、「令和6年度 学校教育自己診断 保護者・教職員集計 評点順一覧表」と「令和6年度 生徒向け 学校生活アンケート 評点順一覧表」も公開していますので、ご覧ください。今年度は、保護者の皆様にはマチコミアンケート、教員及び生徒については Google フォーム(タブレット端末やパソコン機器等を使用)でのアンケート実施としました。

1. 評点の計算方法について

A:よく当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:全く当てはまらない

計算式 → $\{(A \times 3) + (B \times 2) + (C \times 1)\} \div (\text{回答実数} \times 3) \times 100$

実回答者全員が A にすると 100 点となる。

2. 回収率について

		全校
【保護者】	児童・生徒数	437
	回収率	55%
【教職員】	教員数	167
	回収率	92%
【生徒】	対象生徒数	93
	回収率	81%

生徒は中学部 I グループ、高等部の A グループ、B グループの 93名を対象とした。

3. 集計結果について

①上位の3項目の評点

【保護者】

- 20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている ----- 90.0
 6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている ----- 88.3
 8 個別の教育支援計画を作成するにあたって、先生と相談ができている ----- 87.2

【教職員】

- 18 教職員は、児童・生徒に人権意識をもって接し、体罰やいきすぎた指導は行わない ----- 84.5
 17 教職員は、保護者の悩みや相談に適切に対応している ----- 81.9
 24 教職員は、校内におけるいじめ事象等の発生を未然に防ぐために常に努めている ----- 81.6

【中学部・高等部生徒】

- 12 先生は、地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいか教えてくださいか ----- 84.4
 9 先生は、あなたが困っていることがあれば、話を聞いてくれますか ----- 82.6
 1 あなたは、友だちと、楽しく過ごせていますか ----- 82.2

②下位の3項目の評点

【保護者】

- 13 学校は、子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている ----- 69.0

- 14 学校は、ICT を活用した教育活動に取り組んでいる ----- 69.7
 19 学校は、いじめ等対策会議などで、いじめ等の事象発生時は組織的に対応する体制ができています ----- 71.7

【教職員】

- 3 教科会・教科研などを通じて、各教科で教材などに関して学部をこえて情報交換ができています ----- 63.8
 2 教職員の適性・能力が、学校運営に活かされている ----- 66.8
 11 校長は、学校の教育方針について、教職員に伝えている ----- 67.3

【中学部・高等部生徒】

- 5 あなたは、病気や怪我の時に、保健室に行くとき安心していただけますか ----- 67.1
 3 あなたは、担任以外にも、気軽に相談できる先生がいますか ----- 71.5
 2 あなたは、学校に行くのが、楽しいですか ----- 72.8
 11 先生は、将来(進路のことなど)について、教えてください ----- 72.8

4. 考 察

【保護者】

21 項目中、90 点台が1項目、80 点台が 13項目、70 点台が5項目、60 点台が 2 項目となっている。今年度からマチコミアンケートでの実施としたが、昨年度(71.6%)よりも回収率が低い結果となった。「20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている。」が90点であったが、コロナ収束後から学校行事が完全に通常通りとなり、制限なく保護者が参加できるようになったためと思われる。「6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている」「8 個別の教育支援計画を作成するにあたって、先生と相談ができています。」の項目が上位であった。保護者と教員が連絡を取り合い児童・生徒の様子を共有しながら、社会的自立実現に向けて取り組んでいることが窺える。「21 学校は、ホームページや学校ブログなどを活用して、情報の発信に取り組んでいる」の項目は昨年同様下位にあるが、学校では情報の発信に力を入れている。保護者の一部から「ブログを見て学校の様子や活動の様子が伝わってきた」というご意見をいただくことも出てきたが、今回の診断結果からまだまだホームページや学校ブログ、給食ブログなどが活用されていないことが窺える。以下の 2 項目は 70 点以下となっている。

① **設問 13「学校は子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている。」 69.0**

教育環境の改善については毎年大阪府に要望しているが改善されていない。今年度は校区再編成で多少児童・生徒数の減少はあったものの、来年度は新転入学者数が多く、本校の児童・生徒数は過去最多数になる。これまでも特別教室等を普通教室に転用してきたが、さらに転用の必要があり、特別教室や休憩場所等の確保が困難になる。教室内環境調整や防災の観点からの安全・安心のための学校全体の環境整備等、検討しながら進めているが、現在の限られた施設・設備では児童・生徒の教育環境整備にも限界があると言わざるを得ない。今まで以上に大阪府に要望し、児童・生徒が過ごしやすく学びやすい教育環境の確保に努めたい。

② **設問 15「学校は ICT を活用した教育活動に取り組んでいる。」 69.7**

本校における ICT 活用の取り組みについては、授業参観時やブログ等で発信している以外にも、体育館壁面スクリーンの常設や販売学習に向けた取り組み、学部間縦断の取り組み、他校との交流学习など、様々な場面で ICT を活用しながら進めている。今年度は、高等部が ICT 作品コンテストにも応募した。

【教職員】

26項目中、80 点台が7項目、70 点台が15項目、60 点台が 4 項目となっている。昨年度まで主語を「わたし」としていたが今年度は「教職員」に変更し、自分だけではなく学校全体を意識した視点での回答とした。「18 人権・体罰」「24 いじめ事象対応」「25 いじめの未然防止」については、昨年度に引き続き高い評点となっており、学校全体で人権意識を高め、取り組んでいる結果であると思われる。「17 保護者の相談の対応」「23 児童・生

徒の健康保持・増進」「6 児童・生徒の課題の情報共有と支援指導方法の改善」についての評点が向上しており、児童・生徒の心身ともに健全な成長を、保護者と教員、教員同士が情報共有し協力しながら、日々支援指導を行っている結果であると思われる。また、昨年度下位から「14 PTA 活動」の項目が、保護者の回答と同様に向上しており、役員の方々を中心に様々な企画運営を活発に行い、児童・生徒や教員が PTA 活動の様子を目にする機会や参加・協力する機会が増えているためと思われる。以下の2項目は評点が低かった。

① **設問3 教科会・教科研などを通じて、各教科で教材などに関して学部をこえて情報交換ができています。**

63.8

教科会や教科研、ミニ研修会、キャリア研修、夏季研修などで学部をこえた交流や情報交換の機会を設けている。業務の精選やマニュアルの整理など検討しながら進めているが、教員の業務過多で時間の確保が難しい問題は解消されていない。時間調整や内容の工夫をしながら他学年、他学部とのつながりを意識できよう、交流の場を設定していく。

② **設問2 教職員の適正・能力が学校運営に活かされている。 66.8**

教職員が多く、すべての教職員の希望や適正・能力に応じた配置は難しいところであるが、本人の希望の聞き取りや相談を行っている。学校全体のバランスを考え、学校運営を円滑に行うことができるよう配置を検討していく。

【生徒】

13項目中、80点台が5項目、70点台が7項目、60点台が1項目となっている。

「12 災害時の対応」については、毎年3回の避難訓練において実際に起こった場面を想定し、その場での避難行動やその後の指示によるグラウンドへの避難、消防署の方の話を聞く機会や事前事後学習などを積み重ねてきた成果であると思われる。「9 先生は、あなたが困ったことがあれば話を聞いてくれますか」「1 あなたは、友だちと楽しく過ごせていますか」の項目については、日ごろから生徒と教員、生徒同士が関りを持ちながら、学校生活を楽しく、安心して過ごしている様子が窺える。児童・生徒の将来を見据えた教員の支援指導の推進、児童・生徒の人権を尊重し学校生活を安心安全に過ごせる教員体制づくりや施設・設備の工夫など、過ごしやすい学校づくりに努めていく。また、「学校生活アンケート」以外に、代表委員会の「学校についてのアンケート」を通して、全校児童・生徒の意見を聞く機会を設けている。以下の2項目は評点が低い。

① **設問 3 「あなたは、病気や怪我の時に、保健室に行くと安心できますか」 67.1**

保健室を利用する生徒に限られていることも結果の一因であると思われるが、施設・設備や教員の不足も大きな要因と思われる。児童・生徒数増加に伴い、保健室だけでは手当や休養をする場所の確保ができなくなっており、応接室を転用することも多い。また、2名の養護教諭だけでは多数の児童・生徒に対応することは厳しくなっている。保健室の環境改善や養護教諭の応援体制についても検討していく必要がある。

② **設問 6 「あなたは、担任以外にも、気軽に相談できる先生がいますか」 71.5**

昨年度に比べて評点が上がったものの、担任以外の教員との結びつきが希薄な様子が窺える。1クラスあたりの児童・生徒数の増加や教員不足も要因であると考えられるが、昨年に引き続き、クラス・学年・学部を超えた生徒へのあいさつ等の言葉かけや必要に応じて児童・生徒の情報共有をするなどしながら、教員全員で児童・生徒の様子を気にかけて、話しやすい雰囲気を作るよう意識して関わっていく必要がある。

5. PTA 運営委員会からのご意見

- ・教員の多くの皆さんが ICT を活用した授業を展開されていることが保護者にはまだまだ伝わりにくい状況があるように思う。学校側からの ICT 活用の発信方法（活用例を写真で掲載する等）の工夫をすることで改善できるのではないかとと思う。
- ・設問の文言を変えることで教員の方々の PTA に対する評価が上がった事に驚いた。保護者や教員の皆さんにとって、PTA 活動が身近に考えられるきっかけになったのではないかと。引き続き、保護者と教員の皆さんが協力して PTA 活動が行われるよう運営していきたい。
- ・保護者のアンケート回答率55%と低かったのは、マチコミの普及率（知名度）がまだ低いからではないか。マチコミの活用を今後も継続していくことで改善していくのではないかとと思う。回答率の向上は引き続き課題である。また、マチコミを使用することによって、アンケートの集計が容易になるメリットはとても良いことだと思う。
- ・児童・生徒の気持ちを把握するのが難しい場合、保護者アンケートの回答が難しい部分があるため、最後まで回答する気持ちが保たず、回答率が下がることもあるのではないかと。